

ツルシロカネソウ

Dichocarpum stoloniferum (Maxim.) W.T.Wang et P.K.Hsiao
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は3箇所である。本県が日本海側の分布の限界であり、県内での生育地が奥越地方の山地に限られているため、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

山地の林内に生える多年草。根茎は細長く横にはい、匍枝を出して繁殖する。茎の高さは10～20cmで、基部にふつう1枚の根出葉がある。6～8月頃、花はほぼ全開して、上向きに咲き、白色。閉鎖花をつけない。

分布

本州太平洋側（神奈川県～奈良県）に分布する。県内では大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地の森林の開発。植生遷移による生育環境の悪化。日本海側の分布限界で、もともと個体数が少ない。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ミスミソウ（狭義のオオミスミソウおよびケスハマソウを含む）

Hepatica nobilis Schreb. var. *japonica* Nakai
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内には、狭義のミスミソウ、オオミスミソウ、ケスハマソウが分布しているが、これらは判別することが困難な場合が多い。これらの既知の生育地点は20箇所以上であるが、いずれの生育地も小規模で、基盤が脆弱であり、園芸目的の採取圧が高い。

種の特徴

山地の落葉広葉樹林下に生える多年草。根出葉は長い柄があり厚く、褐色を帯びた緑色。葉身は三角状卵形で3つに切れ込む。3～4月頃、花茎を出し、直径1～1.5cmの花を頂生する。花弁は無く、萼片は花弁状で色は白、ピンク、赤紫色など変異が大きい。

分布

本州（中部地方以西）、九州（北部）に分布する。県内では広く分布する。

生育を脅かす要因

生育地の開発。植生遷移による生育環境の悪化。園芸目的の採取。生育地は斜面が多く、自然かく乱による影響も危惧される。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）、Ⅱ類準絶滅危惧（NT）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○	

シナノキンバイ

Trollius japonicus Miq.
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は1箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が亜高山に限られているため、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

高山帯のやや湿った草原に生える多年草。茎は高さ20～80cm。根出葉と茎葉の下部のものには長柄があり、上部の茎葉には短柄があるか無柄。7～9月頃、茎頂に直径3～4cmの花を1～3個つける。花弁は雄蕊よりも短いか、ほぼ同長。

分布

北海道、本州中部北部の高山帯に分布する。県内では大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である高山・亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。園芸目的の採取。とくに、登山道整備での注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	